原 著

胃癌術後患者の退院時における栄養状態の評価指標の検討
－胃切除後の体重減少率と各栄養指標との関係－

小原　仁[†]　伊藤玲子　染谷崇徳[*]　湯目　玄[*]　手島　伸[*]

IRYO　Vol. 76　No. 6（411－418）2022

要旨　【背景および目的】胃癌術後患者において体重減少は主要な栄養状態の評価指標であるが，胃切除患者の退院時の体重減少率と血液生化学検査および栄養摂取量等の栄養指標との関係を検討した報告はほとんどない．本研究は，胃癌術後患者の退院時における体重減少率と各栄養指標との関係を明らかにすることを目的に実施した．

【方法】2018年１月から2020年12月までに国立病院機構仙台医療センター外科において，胃全摘術もしくは胃亜全摘術を施行した胃癌患者78名を対象とした．対象患者の入院時と退院時における各栄養指標（身体状況，血液生化学検査および栄養摂取状況）を比較するとともに，退院時の体重減少率と各栄養指標の相関関係を検討した．また，エネルギー充足率75%をカットオフ値として，対象患者を栄養障害群（28名）と非栄養障害群（50名）に分類して，２群間における各栄養指標の減少率を比較した．

【結果】対象患者の術後在院日数は11.6日であった．退院時のBMIは入院時よりも有意に低値を示し，体重減少率は5.7%であった．退院時のアルブミン，トランスフェリン，プレアルブミン，レチノール結合蛋白は入院時よりも有意に低値を示した．退院時のエネルギー充足率は83.2%であった．体重減少率は，エネルギー充足率との間には有意な負の相関が認められたが，その他の栄養指標との間には有意な相関は認められなかった．栄養障害群と非栄養障害群の比較では，栄養障害群の体重，トランスフェリンおよびプレアルブミンの減少率は，非栄養障害群よりも有意に高値を示した．

【結論】胃癌術後患者の退院時の栄養評価において，エネルギー充足率は体重減少率と同様に主要な栄養指標となる可能性が示唆された．体重減少率とエネルギー充足率を合わせて退院時の栄養評価に用いることは精度の高い栄養評価につながると考えられた．

キーワード　胃切除患者，体重減少率，エネルギー充足率，栄養評価，栄養障害

緒　言

胃癌の外科治療において栄養療法は重要な治療概念とされている．近年，胃切除術における周術期の栄養管理では，術前の絶食期間短縮および術後の早期栄養補給再開によって腸管機能を早期に回復させ

国立病院機構仙台医療センター　栄養管理室　＊外科　†管理栄養士
著者連絡先：小原　仁　国立病院機構仙台医療センター 栄養管理室
〒983-8520　宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目11番12号
e-mail：obara.hitoshi.as@mail.hosp.go.jp
（2022年３月25日受付，2022年10月14日受理）
Nutritional Assessment at the Time of Discharge of the Patients Undergoing Gastrectomy：
Relationship between Rate of Weight Loss and Nutritional Indices
Hitoshi Obara, Reiko Ito, Sotoku Someya*, Gen Yunome* and Shin Teshima*, Department of Nutrition Management,
＊Department of Surgery, NHO Sendai Medical Center
（Received Mar. 25, 2022, Accepted Oct. 14, 2022）
Key Words：patients undergoing gastrectomy, rate of weight loss, rate of energy intake, nutritional assessment, malnutrition